

「大腸がん」ってなに？

大腸は筒状の臓器で、大腸の壁はいくつかの層が重なってできています。その最も内側をおおう粘膜から発生する病気が「大腸がん」です。一部の正常な粘膜の細胞が発がん物質など何らかの影響を受けてがん細胞となります。そして、時間が経つと、がん細胞が増えていきます。やがてがん細胞が何兆という数に達すると「大腸がん」として検診・検査を通じて認識できるようになります。なお、大腸には「結腸」と「直腸」の部分があるため、「大腸がん」はがんが発生する場所によって、「結腸がん」、「直腸がん」という呼び方がされる場合もあります。

増えている大腸がん 私は大丈夫って思っていないですか？

大腸がんは、かつて日本では少ないがんとされていましたが、戦後から1990年代までに急速に増えてきたがんの1つです。毎年約10万人が新たに大腸がんになっています。

がん発生数（全年齢）

